

家政
領域

科学技術の進展とともに変化する生活の諸問題を、食物学、被服学、住居学、保育学及び家庭経営学の立場から分析研究します。特に、人間と環境の相互関係を各領域を超えた総合的視点でとらえていきます。また、家族や家庭生活の在り方が問い直されている現在、家庭、学校及び社会における生活文化の方向を探る中で、学校における生活教育の展開の課題を追求します。

修士論文

- 家庭科における自己理解に関する学習プログラムの構想
- 地域社会と親の養育態度が小学生の社会的スキルに与える影響
- タイにおける分譲住宅団地の共用空間に関する研究

専任教員の研究・教育の概要

上里 京子

【家庭科教育学】

家庭科教育学を専門とし、日本と外国の家政・生活教育思想史や、カリキュラム比較と開発研究を行っています。最近は特に、科学的系統性重視のカリキュラムを特徴とするフランスの生活科学教育との比較を通して、日本の家庭科教育の認識論やカリキュラム開発を進めています。大学院での学びにおいても、日・仏・米の家庭科教育の現状と課題をリアルに分析し、課題解決の方策についてカリキュラムと授業開発を通して検討しています。

小林 陽子

【家庭科教育学】

家庭科教育学や家政学の成立、変遷に関する史的研究を行ってきました。家庭科教育はジェンダード・サブジェクトとしての歴史をもつため、ジェンダーについても関心があります。近年は、家庭科教育実践や家庭科教員養成にも関心を寄せています。授業では、戦後家庭科のあゆみを「女子用教科」から「男女共修」へ、そして、現在の課題である「男女共教」について、カリキュラムとともに検討します。

西蘭 大実

【食物学】

食物の生産・流通とその環境負荷が中心の研究分野です。主な研究テーマは、食品のコールドチェーン(低温流通)の冷媒管理のあり方についてです。授業では小中学校家庭科の食物分野と消費・環境分野の学習に視点を合わせ、海外を含む遠隔地で生産された食物の利用が増大する現代における、食教育全般に視野を広げて検討します。

田中 麻里

【住居学】

私たちが生活している空間を対象とした研究とデザインワークを行っています。アジアをフィールドとした伝統的住空間の変容や防災教育について研究を進めています。授業では、小中学校家庭科の住居分野で重要となる住まいの地域性や室内環境の快適性、減災の知恵について学びを深め、地域の特性を理解するための学びのあり方についても検討します。

前田亜紀子

【被服学】

人体-衣服-環境をひとつの系として捉える衣環境学、被服衛生学の研究を行ってきました。被服には身体を保護する役割と機能があります。一方で文化や慣習の下では、着心地や快適性よりも、心理的側面が優先されることもあります。両者の関係性を多面的に追及します。授業では衣服が繊維から作られ、購入、管理、消費のサイクルを通じて、環境まで考えることができる、包括的な衣生活の力を身につけることを目標にしています。

保健体育
領域

保健体育科教育、体育学、運動学、学校保健学及び教育科学の理論的及び実践的研究を基礎として、保健体育教育に関する総合的な教育・研究を行います。また、保健体育学に地域性を持たせるとともに、生涯教育を行うことができるように、地域での理論的・実践的な共同研究を進展させ、より学際的・総合的な課題を追求します。

修士論文

- ジュニア・アルペンスキー選手におけるターン動作時の姿勢分析
- 体育授業プログラムが若手教師の教授技術向上に及ぼす影響
-特に、よい体育授業を実践するための基礎的条件に着目して-
- 幼稚園児の運動発達を促す遊びと教師の役割

専任教員の研究・教育の概要

小川 正行

【学校保健】

学校保健領域の中でも健康教育・ヘルスプロモーション・保健統計に関する分野の教育や研究を主に行っています。特に近年の第二次健康日本21政策の中心課題である「健康寿命の延伸」に関係する研究・教育活動では、自立社会生活を可能にするための青少年期からの健康造りと体力作りに着目したデータ収集とその検討を行い学会での研究報告や、大学のみでなく社会教育活動も実践しています。授業では、生涯の健康づくりの観点から学校保健分野での取り組みについて、共同研究形式の授業展開をしたいと考えています。

福地 豊樹

【体育学】

体育学領域、特に体育原理およびスポーツ史(体育史)の内容を取り扱っています。歴史的な研究方法より、スポーツ文化の現在の問題性やこれからの課題について探求しています。スポーツ文化は政治・経済の状況が色濃く反映されています。そうした事柄との関係性を考えねば、これからの学校や社会の中で、しっかりと根づくことは出来ません。授業では教育との関わり、特に「身体性」の課題についてももしっかり考えてゆきたいと思います。

上條 隆

【運動学】

スポーツ生理・医学の観点から運動に必要な身体機能および過使用による身体変化などについて検討し、競技力向上を目的としたトレーニング方法・障害の予防方法や復帰方法について研究しています。授業においては、教育現場において発生する様々な課題に対して、最新の研究内容を踏まえてディスカッション形式で考えていきたいと考えています。

新井 淑弘

【学校保健】

保健科教育における、“公害問題の教材化と学習効率”に関して、環境科学的視点を重視した研究を行っています。また、健康や運動、環境、老化について、細胞生物学的、生化学的手法を用いた研究を行っています。担当授業は「保健体育科内容研究Y」「保健体育科教育研究C」「学校ヘルスポモーション」で、その中では“保健領域の授業づくり”についておよび、“学校における新しい健康づくりの在り方”等について考えていきます。

木山 慶子

【体育科教育学】

体育の目標・内容・評価について、学習指導要領の歴史的変遷を踏まえ、検討しています。授業では、体育科教育学の視点から、体育の授業づくりを考えます。よりよい授業への授業改善のプロセスを理解し、特に授業評価についての基礎的基本的な知識・技能を習得し、それらを活用できる実践力を身につけることをめざします。

西田 順一

【体育学】

“体育・スポーツ心理学”を研究分野としています。体育・スポーツに関わる事象や問題を心理学の立場から研究を進め、実践や指導に必要な科学的知見を与えています。近年の主な研究テーマは、身体活動のメンタルヘルス効果、体育授業に伴う心理的恩恵、体罰撲滅に向けた心理教育です。授業では、心理学的理論に則った中学校体育科の指導法を中心として、さらに、小学児童の心理的発達や特徴を踏まえた体育指導法も検討しています。

中雄 勇人

【運動学】

運動生理学およびバイオメカニクスの観点から、運動による身体諸機能および身体動作の変化などを検討し、子どもから高齢者までの体力諸能などの基準値作成や、新たな指導法の構築などの研究を行っています。授業では、運動学等の研究手法を例に挙げて、教育現場において日々新たに発生する課題の発見やその解決方法を学習し、就職した後も現場において自ら課題を克服していける能力を身につけることができるよう検討しています。

鬼澤 陽子

【体育科教育学】

「体育の授業研究(体育科教育の実践的研究)」が中心的な研究分野です。現在の主な研究テーマは、「学習成果を保証するための教材開発とその学習成果を評価するための尺度開発」、「運動が苦手、嫌いな傾向の児童生徒の運動有能感を高める指導の在り方」です。授業では、国内外の研究の動向を踏まえながら、体育の学習指導論、体育の指導方略・指導技術を中心に上げるとともに、これからの体育の授業について検討します。